八戸コ	業高等	専門学	校	開講年度	令和04年度 (2	.022年度)	授業科目	情報処理	II (1021)	
科目基礎	 青報					•	•		•	
科目番号 4M29		ı			科目区分	専門 / 必	修			
授業形態						単位の種別と単位	数 履修単位	ī: 1		
開設学科 産業システス		ノステム	工学科機械シ	ステムデザインコー	対象学年	4				
開設期 秋学期(3rc		(3rd-Q	2)		週時間数	週時間数 3rd-Q:4				
			NSI-C	三訂版,石田町	晴久ほか, 実教出版					
担当教員		細越	享一,北/	広大						
到達目標										
(2) eclips	seにおける	3プログ:	ラム開発	が出来ること 手順が理解で プログラム作品	できること 成ができること					
ルーブリ	ック									
			玛	型想的な到達し	/ベルの目安	標準的な到達レベ	未到達レ	未到達レベルの目安		
Windowsシステムの基本操作				Vindowsシスラ ることができる	テムを有効に活用す	Windowsシステム きる。	で Window きない。	Windowsシステムの基本操作ができない。		
プログラム開発手順			フす	プログラム開発 することができ	終手順を有効に活用 る。	プログラム開発手順が理解できる。		3 プログラ い。	プログラム開発手順が理解できない。	
プログラム作成				言語の文法を プラム作成がで	有効に活用してプロ ごきる。	C言語の文法を理解して簡単なプログラム作成ができる。		ロ C言語の グラム作	C言語の文法を理解して簡単なプログラム作成ができない。	
学科の到達	達目標項	目との	関係							
ディプロマバ										
教育方法等	等									
【開講学期 UNIXの3 ログラミン		IXのシフ	) 秋学期週4時間 システム記述用言語として開発されたC言語は、流れ制御構造を完備し、データ構造もしっかりした構造化プ グのし易い本格的なプログラミング言語であり、現在コンピュータの汎用言語として定着している。ここで して、C言語によるプログラミングの習得とアルゴリズムの基礎的事項を学ぶ。							
授業の進めフ	方・方法	いるこ	とを知り	スようにする.	:ど20%として評価を					
注意点		・演習	主体の		キーボードやパソコ: れにより自分の理解!	ンの操作に早く習熟度を把握すること。	ぬすることが重要	更である。		
授業の属性	牛•履修	: Fの区	分							
授業の属性			分	ICT 利用		□□遠隔授業対応		□ 実務	経験のある教員	員による授業
授業の属 <sup>†</sup> <ul> <li>アクティ</li> </ul>				] ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務	経験のある教員	員による授業
				] ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務	経験のある教員	員による授業
□ アクティ						,	週ごとの到達目		経験のある教員	員による授業
□ アクティ		ング	授業	内容	・関数の書式と作り	<u> </u>	プログラムを実	標 行するため <i>0</i>	)手順を理解し	, 操作でき
□ アクティ		ング 週 1週	授業情報	内容 処理 I の復習		j 方①	プログラムを実 る. 関数を使っ	標 行するための たプログラ <i>L</i>	)手順を理解し 」を作成できる	, 操作でき ).
□ アクティ		辺	授業情報関数	内容 処理 I の復習 の書式と作り	・関数の書式と作り 方②・再帰処理 元配列・多次元配列	方① :	プログラムを実	標 行するため <i>の</i> たプログラ <i>L</i> を使ったプロ	D手順を理解し △を作成できる ]グラムを作成	, 操作でき ).
授業計画	<b>イブラーニ</b>	ング 週 1週 2週	授業情報 関数 1次	内容 処理 I の復習 の書式と作り	方②・再帰処理 元配列・多次元配列	方① [	プログラムを実 る. 関数を使っ 関数, 再帰処理	標 行するため <i>0</i> たプログラ <u>/</u> を使ったプロ	D手順を理解し △を作成できる ]グラムを作成 F成できる.	, 操作でき ). ごできる.
授業計画		ルグ 週 1週 2週 3週 4週	授業 情報 関数 1次 到達	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス	方① : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	プログラムを実 る. 関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド	標 行するため <i>の</i> たプログラ <u>/</u> を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた	○手順を理解し △を作成できる 1グラムを作成 F成できる・ こプログラムを	, 操作でき た できる. 作成できる
授業計画	<b>イブラーニ</b>	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用	方① : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	プログラムを実 る. 関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を	標 行するための たプログラ♪ を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた	D手順を理解し なを作成できる 1グラムを作成 F成できる. プログラムを プログラムを	, 操作でき
授業計画	<b>イブラーニ</b>	ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び	方① ; 	プログラムを実る. 関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を ポインタ変数, 用いたプログラ	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ロンスを用いた ポインタ配列 ムを作成でき	D手順を理解し なを作成できる 1グラムを作成 F成できる. ピプログラムを プログラムを作成で ブラムを作成で リ、参照による	, 操作でき
授業計画	<b>イブラーニ</b>	ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ ポイ 構造	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び	方① ; 	プログラムを実 る. 関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ロンスを用いた ポインタ配列 ムを作成でき	D手順を理解し なを作成できる 1グラムを作成 F成できる. ピプログラムを プログラムを作成で ブラムを作成で リ、参照による	, 操作でき
授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業 情報 別次 到達 ポイ ポー 構選 到達	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習	方① ; 	プログラムを実る. 関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を ポインタ変数, 用いたプログラ	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ロンスを用いた ポインタ配列 ムを作成でき	D手順を理解し なを作成できる 1グラムを作成 F成できる. ピプログラムを プログラムを作成で ブラムを作成で リ、参照による	, 操作でき
□ アクティ 授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ 構造達 の学習	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 図内容と到道	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習	方① : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	プログラムを実る. 関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を ポインタ変数, 用いたプログラ	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ロンスを用いた ポインタ配列 ムを作成でき	○手順を理解し △を作成できる ○プラムを作成 できる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる きる. 呼び出しを まできる.
授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ 構造達 の学習	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習 <b>達目</b> 標 学習内容の到達目標	方① : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	プログラムを実る、関数を使っ 関数、再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を ポインタク変数、 用いたプログラ 構造体、共用体	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた サロクスを用いたプロクポムを作成でき を用いたプロ	○手順を理解し □ を作成できる □ グラムを作成できる・ □ プログラムを ブラムを作成できる・ □ プログラムを ブラムを作成できる・ □ プラムを作成でする・ □ プラムを作成でする・ □ プラムを作成でする・ □ プラムを作成でする・	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ 構造達 の学習	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 図内容と到道	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習 <b>荃目標</b> 学習内容の到達目様 プログラムを実行	方① ; j j j j j j j j j j j j j j j j j j	プログラムを実る、関数を使っ 関数、再帰処理 配列を使ったプ 配列要素のアド ポインタ変数を ポインタク変数、 用いたプログラ 構造体、共用体	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた サロクスを用いたプロクポムを作成でき を用いたプロ	②手順を理解し ③を作成できる ③グラムを作成で 下成できる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる きる. 呼び出しを まできる.
□ アクティ 授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ 構造達 の学習	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 図内容と到道	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習 <b>荃目標</b> 学習内容の到達目標 プログラムを実行す 定数と変数を説明	方① [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [	プログラムを実る. 関数を使って関数, 再帰処理関数, 再帰処理配列を使ったプ配列要素のアドポインタ変数をポインタ変数, 用いたプログラ構造体, 共用体	標 行するための たプログラムを作 を使ったプログラムを作 レスを用いた 用いたプログ ポインタ配列 ムを作成でき を用いたプロ	②手順を理解し ③を作成できる ③グラムを作成で 一できる。 一できる。 「ラムを作成で 「ラムを作成で 「ラムを作成で 「ラムを作成で 「ラムを作成で 「フェースを 「フェーな 「フェースを 「フェーな	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム	授業 情報 関数 1次 到達 ポイ 構造達 の学習	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 図内容と到道	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行。 定数と変数を説明。	方①   「	プログラムを実る. 関数を使って関数, 再帰処理 配列を使ったプ配列要素のアドポインタ変数をポインタ変数, 用いたプログラ 講造体, 共用体理解し、操作である。	標 行するための たプログラムを作 を使ったプログラムを作 レスを用いた 用いたプログ ポインタ配列 ムを作成でき を用いたプロ	○手順を理解し ◇を作成できる ○プラムを作成 下成できる. ○プラムを作成で ブラムを作成で ブラムを作成で ○プラムを作成で ・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3 モデルコン 分類	アカリキ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報 数次 到ポイポ 講選 の学習	内容 処理Iの復習 の書式と作り 元配列・2次 渡試験・配列 シタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 学習内容	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  室目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行。 定数と変数を説明。 整数型、実数型、変類との	方① [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラを使ったプロ列要素のアドポインタ変数をポインタ変数を開いたプロバー 東海 はいたが、共用体関係を説明できる。	標 行するための たプログラムを作 を使ったプログラムを作 レスを用いた 用いたプログ ポインタ配列 ムを作成でき を用いたプロ	○手順を理解し △を作成できる ○プラムを作成できる・ ○プラムを作成できる・ ○プラムを作成できる・ ○プラムを作成でする・ ○プローを作成でする・ ○プローをでするをでするをでするをでするをでするをでするをでするをでするをでするをでする	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3	ブラーニ BrdQ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報 数次 到ポイポ 講選 の学習	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 図内容と到道	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  幸目標 学習内容の到達目標 プログラムを実行す 定数と変数を説明 整数型、実数型、変 演算子の種類と優分	方①	プログラムを実る、関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ配列要素のアドポインタ変数をポインタ変数, 用いたプログラ 構造体, 共用体理を説明できる。	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを用いた レスを用いた ポインタ配列 が上がながら を用いたプロ を用いたプロ を用いたプロ	の手順を理解し なを作成できる 1グラムを作成 できる・ プログラムを がラムを作成で リ、参照による 1グラムを作成 4 4 4 4	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3 モデルコン 分類	アカリキ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報 数次 到ポイポ 講選 の学習	内容 処理Iの復習 の書式と作り 元配列・2次 渡試験・配列 シタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 学習内容	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  幸目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行。 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優ら	方①	プログラムを実る、関数を使っ 関数, 再帰処理 配列を使ったプ配列要素のアドポインタ変数をポインタ変数, 用いたプログラ 構造体, 共用体理を説明できる。	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを用いた レスを用いた ポインタ配列 が上がながら を用いたプロ を用いたプロ を用いたプロ	D手順を理解し な作成できる Dグラムを作成 できる・ プログラムを がラムを作成で プラムを作成 プリークラムを は、 フラムを作成 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3 モデルコン 分類	アカリキ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報 数次 到ポイポ 講選 の学習	内容 処理Iの復習 の書式と作り 元配列・2次 渡試験・配列 シタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 学習内容	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 実類型、 実質子の種類と優 算術演算および比算 データを入力し、終	方①	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを要素のアド配列要素のアドポインタ変数をポインタ変数が、一環造体、共用体関を説明できる。 なを作成できる。 つびラムを作成できる。	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ポインタ配列 がなを用いたプロク を用いたプロク を用いたプロ	D手順を理解し な作成できる Dブラムを作成できる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3 モデルコン 分類	アカリキ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報 数次 到ポイポ 講選 の学習	内容 処理Iの復習 の書式と作り 元配列・2次 渡試験・配列 シタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 学習内容	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優 算術演算および比 データを入力し、終 条件判断プログラム 繰り返し処理プログ	方①	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを変数, 再帰処理配列要素のアドポインタ変数を、ポインとプログラムを作成できる。 なを作成できる。 なんできる。 なんでん できる。 なん でん できる。 なん でん できる。 なん でん でん できる。 なん でん	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ポインタ配列 がなを用いたプロク を用いたプロク を用いたプロ	D手順を理解し 本を作成できる。 プラムを作成で デプログラムを ブラムを作成で ブラムを作成で フグラムを作成で は、 は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる ききる. 呼び出しを できる. 授業週 後1,後7
□ アクティ 授業計画 後期 3 ・モデルコン 分類 専門的能力	アカリキ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報 数次 到ポイポ 講選 の学習	内容 処理Iの復習 の書式と作り 元配列・2次 渡試験・配列 シタ変数の基 ンタ変数と配 体・共用体・ 度試験 学習内容	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優 算術演算および比 データを入力し、終 条件判断プログラム 繰り返し処理プログ	方①	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを変数, 再帰処理配列要素のアドポインタ変数を、ポインとプログラムを作成できる。 なを作成できる。 なんできる。 なんでん できる。 なん でん できる。 なん でん できる。 なん でん でん できる。 なん でん	標 行するための たプログラム を使ったプロ ログラムを作 レスを用いた ポインタ配列 がなを用いたプロク を用いたプロク を用いたプロ	D手順を理解し な作成できる Dブラムを作成できる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	, 操作でき たできる. 作成できる きる. 呼び出しを できる.
□ アクティ 授業計画 後期 3 モデルコン 分類	アカリキ	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授 精 関 1 3 3 3 3 4 4 4 4 3 4 3 4 3 4 3 4 4 3 4 5 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	内容 処理Iの復習 の書式と作り 元配列・2次 腹試験・配列 シク変数と配 かままます。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優 算術演算および比 データを入力し、終 条件判断プログラム 繰り返し処理プログ	まするための手順を理 できる。 と字型などのデータ に関位を理解し、遊 交演算のプログラム き果を出力するプログラムを作成できる。 ブラムを作成できる。 ブラムを作成できる。	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを変数, 再帰処理配列要素のアドポインタ変数を、ポインとプログラムを作成できる。 なを作成できる。 なんできる。 なんでん できる。 なん でん できる。 なん でん できる。 なん でん でん できる。 なん でん	標 行するための たプログラムを たプログラムを ログラムを用いた レスを用いたプロク ポインタ配でき を用いたプロ を用いたプログ	D手順を理解し 本を作成できる。 プラムを作成で デプログラムを ブラムを作成で ブラムを作成で フグラムを作成で は、 は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる ききる. 呼び出しを できる. 授業週 後1,後7
□ アクティ 授業計画 後期 ・デルコン 分類 ・専門的能力	アカリキ 分野別の 門工学	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	「	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 シク変数と配 体・共用体・ 度対容 学習内容 情報処理	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優 算術演算および比 データを入力し、終 条件判断プログラム 繰り返し処理プログ	方①	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを変数, 再帰処理配列要素のアドポインタ変数を、ポインとプログラムを作成できる。 なを作成できる。 なんできる。 なんでん できる。 なん でん できる。 なん でん できる。 なん でん でん できる。 なん でん	標 行するための たプログラム を使ったプロリンスを用いた ログラムを用いた プロスを用いたプロット おいたのでで である。 る。 る。	D手順を理解し 本を作成できる。 プラムを作成で デプログラムを ブラムを作成で ブラムを作成で フグラムを作成で は、 は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる ききる. 呼び出しを できる. 授業週 後1,後7
□ アクティ 授業計画 後期 ・デルコ 分類 ・専門的能力 ・評価割合 ・総合評価割る	アカリキ 分野別の 門工学	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	授業 情報数次 到ポイイ 構到学 の学 数系分野	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数と配 体・共用体・ 度対容 学習内容 情報処理	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優 算術演算および比 データを入力し、終 条件判断プログラム 繰り返し処理プログ	方①	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを変数, 再帰処理配列要素のアドポインタ変数を、ポインとプログラムを作成できる。 なを作成できる。 なんできる。 なんでん できる。 なん でん できる。 なん でん できる。 なん でん でん できる。 なん でん	標行するためのたプログラムを使ったプログラムを用いたプログラムを用いたプログラムを用いたプログラムを用いたプログラムを用いたプログラムを用いたプログラを用いたプログを用いたプログラスを用いた。	D手順を理解し 本を作成できる。 プラムを作成で デプログラムを ブラムを作成で ブラムを作成で フグラムを作成で は、 は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる ききる. 呼び出しを できる. 授業週 後1,後7
□ アクティ 授業計画 後期 ・デルコン 分類 ・専門的能力	アカリキ 分野別の 門工学	ルグ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 - ユラム 分理	「	内容 処理 I の復習 の書式と作り 元配列・2次 度試験・配列 ンタ変数と配 体・共験 図内容 情報処理	方②・再帰処理 元配列・多次元配列 とアドレス 礎と利用 列・参照による呼び 演習  主目標 学習内容の到達目様 プログラムを実行 定数と変数を説明 整数型、実数型、 演算子の種類と優 算術演算および比 データを入力し、終 条件判断プログラム 繰り返し処理プログ	方①	プログラムを実る. 関数を使って関数を使ったプログラムを変数, 再帰処理配列要素のアドポインタ変数を、ポインとプログラムを作成できる。 なを作成できる。 なんできる。 なんでん できる。 なん でん できる。 なん でん できる。 なん でん でん できる。 なん でん	標 行するための たプログラム を使ったプロリンスを用いた ログラムを用いた プロスを用いたプロット おいたのでで である。 る。 る。	D手順を理解し 本を作成できる。 プラムを作成で デプログラムを ブラムを作成で ブラムを作成で フグラムを作成で は、 は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7, 操作でき 2. できる. 作成できる ききる. 呼び出しを できる. 授業週 後1,後7